

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第1回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2008年1月16日 (水) 15:10~16:30
2. 場所 TKP田町駅前会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
(出席委員) 阿部 (主査), 岡本 (副主査), 関口 (幹事), 大浦, 柏木, 三本木, 坂下,  
桜井, 高橋, 土生, 山田 (基) (11名)  
(代理出席委員) 伊藤 (河西代理), 浦上 (脇代理) (2名)  
(欠席委員) 中山, 古谷 (2名)  
(常時参加者) 大塚, 大間, 熊野, 野口, 御子柴, 水井, 三根, 山田 (隆) (8名)  
(欠席常時参加者) 明里, 駒月, 飛田, 藤井 (4名)  
(事務局) 岡村
4. 配付資料  
F9Ph2SC1-1 標準委員会の活動について  
F9Ph2SC1-2 人事について  
F9Ph2SC1-3 標準の策定に関する基本的考え方 (案)  
F9Ph2SC1-4 L1 廃棄体の製作工程と製作管理の手順と内容例  
F9Ph2SC1-5 分科会の進め方について (案)

参考資料

- F9Ph2SC1-参考1 低レベル放射性廃棄体等の製作・検査方法の標準化について  
(分科会設立趣意書)

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 代理出席委員を含め13名の委員の出席があり, 決議に必要な委員数(10名以上)を満足している旨の報告が行われた。

(2) 標準委員会の活動について (F9Ph2SC1-1)

事務局より, 標準委員会の組織等の紹介と, 今後作成する標準については JIS Z8301:2005 に従って作成するルールとなっていることの説明があった。

(3) 人事について

a. 主査の互選

投票の結果、阿部委員 9 票、岡本委員 3 票、河西委員 1 票となり、阿部委員が主査として選任された。

b. 副主査及び幹事の指名

阿部主査より、岡本委員が副主査として指名された。更に、阿部主査と岡本委員により、関口委員が幹事として指名された。

c. 分科会代表者の選任

阿部主査が、分科会代表者を兼ねることとなった。

また、委員全員で自己紹介を行った。

d. 常時参加者登録の確認

事務局より、本日の第 15 回余裕深度処分対象廃棄体分科会で、本分科会の常時参加者の登録が承認されたことが報告された。

(4) 標準の策定に関する基本的考え方（案）(F9Ph2SC1-3)

F9Ph2SC1-3 に沿って、関口幹事より、本分科会での検討に関する基本的考え方が説明され、了承された。

主な議論：

- ・事業者が実施する「検査」と国側が実施する検査をどのように区分しているのか（高橋委員）

→ ①製作プロセス管理上の検査、②規制側のニーズに係る検査、③埋施設側が求める要件に係る検査、の三つに分かれると思われるが、それぞれの段階でどのような検査が必要になるかは、今後実施される安全審査などが進まなければ明確にならないのではないかと。 (柏木委員)

また、これらの検査項目を標準でどのように扱うのかも、上記の状況を踏まえて判断していくことになるのではないかと。 (柏木委員)

→ 検討事項は、汎用性のあるものを中心とすべきだろう。(阿部主査)

→ 「受け入れ施設側の要件は検討範囲外」としているが、廃棄体製作側と受け入れ側とがつながっていることは明確であり、検討にあたってはこのことを考慮する。(阿部主査)

(5) L1廃棄体の製作工程と製作管理の手順と内容例(F9Ph2SC1-4)

F9Ph2SC1-4 に沿って、御子柴常時参加者より、廃棄体の製作工程と工程毎の管理項目案例が説明され、このような観点から検討を進めることが確認された。

主な議論：

- ・放射能評価関係事項は対象外か（櫻井委員）

→ 放射能測定を含むが、標準は別である。(御子柴常時参加者)

- ・放射能濃度は製作段階のどこで測定するのか（阿部主査）  
→ 本資料中では「容器蓋締め」の後になる。（三本木委員）
- ・発生履歴の記録管理は重要だが、どこで扱うのか。（阿部主査）  
→ 放射能評価分科会の検討結果を踏まえ、本分科会で審議することになる。（三本木）
- ・廃棄体タイプ毎に、必要な管理項目をもれなく検討する必要がある。次回分科会で提示されたい。（阿部主査）

（6）本分科会の正式名称について

関口委員より、「低レベル放射性廃棄体等製作・検査方法分科会（仮称）」としている本分科会の名称変更案として「LLW廃棄体等製作・管理方法分科会」が提案され議論し「LLW廃棄体等製作・管理分科会」にする案となったが、次回サイクル専門部会に諮り承認を得ることとした。

（7）分科会の進め方について（案）

F9Ph2SC1-5に沿って、関口幹事より、2009年2月中頃に本報告するとのスケジュール案が紹介されたが、「規制側の動きを考慮すると、検討を早めるべき」との意見があり、中間報告を10月、本報告を12月にすることが確認された。

また、廃棄体タイプ毎に管理項目を整理して検討する、などして合理的に進めることも確認された。

6. その他

次回分科会は、2月22日13:30～、場所は事務局にて調整することとした。

以 上